

全国保育士会「社会の変化に対応した保育内容等に関する特別委員会」作業シート

～「1歳以上3歳未満児の保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」					
ア. 心身の健康に関する領域「健康」					
① 明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ。					
② 自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。					
③ 健康、安全な生活に必要な習慣に気付き、自分でしてみようとする気持ちが育つ。					
保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点(「中間のとりまとめ」に向けて) ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要	
	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等			
内容	①保育士等の愛情豊かな受容の下で、安定感をもって生活をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働者意識の変化により、保育士としての愛情が当たり前にならなくなっているのか</li> <li>① 保育士の不足などにより、園生活の中でのゆとりが生まれにくくなっている。</li> <li>・保護者の仕事優先の生活による長時間保育、分離不安</li> </ul>	<b>1歳以上3歳未満児保育／ア</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マスクなしでの生活の保障。</li> <li>・丁寧な保護者の支援が必要なため、加配を位置づけていただきたい。家庭支援推進事業の拡充。</li> <li>・保護者が相談しやすい方法やシステムを構築する必要がある。そのためには、人員の確保と研修体制を整えることが必要。</li> <li>・衛生管理のために保育士の仕事量が増えている。保育体制強化事業(拡充)保育に係る周辺業務を行う人の配置促進。</li> <li>・コロナの流行で、保護者が園舎入室が出来なくなったことで、より丁寧に子どもたちのことを連絡帳や送迎時に伝え家庭での情報を共有する。</li> <li>・密を避ける為、遊ぶ空間を広くとり、少人数での活動が増える為、保育士の手が足りない事がある。</li> </ul>	<b>配置基準の改定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>i 保育者自身の安定、ゆとりを持った関りのために配置基準の見直しが必要。</li> </ul>	
	② 食事や午睡、遊びと休息など、保育所における生活のリズムが形成される。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の生活スタイルや就業形態等が多様になり、就寝が遅く、それに伴い登園も遅くなり、園での生活リズムが整いにくい。</li> <li>② 全体的に、家庭での基本的な生活習慣の取り組みが遅れている。というか、保護者にそこまでの理解がないように感じる。入園してようやく発達について考えるようになっていく。</li> <li>・生活リズムは家庭も含めた24時間で見る必要がある。家庭での生活リズムの乱れが見受けられる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染状況により、継続して登園することが難しい子どもが増え、生活リズムが崩れやすい為、1人1人に合わせた対応を行った。</li> <li>② コロナ陽性や濃厚接触などでのまとまった休み期間に生活リズムが乱れることが多い。</li> <li>・登園する時間帯や体質などにより満2歳ごろまで午前寝が必要な子がいるなど個人差が大きく、個人に合わせるならば、園の生活リズムの形成は、2歳児後半から3歳児前半。集団を優先するならば、2歳児クラス半ばで形成か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ii ゆとりをもって子どもと関わることのできる環境の整備</li> <li>・手づかみ→スプーン 離乳食→完了食→幼児食 の進め方やトイレトレーニングなど子どもの体のづくり(膀胱の大きさや働き等も含め)を丁寧に説明する必要があるため、保育士が愛情豊かに子どもと子育てに関わる環境整備が必要</li> </ul>
	③ 走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>③ ・乳児期に十分に這う期間をもたず、家具などにすぐにつかまり立ちをしてしまう。(這う場所が少ない)</li> <li>・身体の使い方がうまく出来ないことがある。全身を使って遊ぶことが家庭内で減ってきている。</li> <li>・あふれる情報の取捨選択ができていないのか。相談場所がSNS中心となり、振り回されているように感じる。</li> <li>・家庭で経験することが少なくなっているため園では以前にもまして意識的に前進を使った遊びを取り入れる必要がある</li> <li>・園庭のない小規模では、全身を使った遊びの提供や保障することが難しい。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>③ ・全身を使う遊びが楽しめるよう消毒できる用具・遊具の活用・数の調整を行っている。</li> <li>・密にならないようにクラスごとに園庭で遊ぶ時間を設けたことで、探索活動を行っている。</li> <li>・密集する、興奮のあまり抱き着く、大声で笑ったり叫んだりする、という様子が見られやすく、配慮する。</li> <li>・おうち時間が増えたことにより子どもたちの遊びがYouTubeやメディア等が多くなり、視力低下につながっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>iv コロナ禍が子どもに与える影響の検証</li> <li>毎日マスクをする生活が影響する子どもの発達</li> <li>v 生活様式の変化も踏まえた保護者との連携</li> <li>・保護者の関心が高い「トイレトレーニング」だが実際にどう対応したらいいか、子どもの体のづくり(膀胱の大きさや働きなども含めて)伝えていく必要があると感じる。</li> <li>・生活様式が変化しており、ほとんどの家庭が座って行うトイレになっているので、男児の立って行う排尿の仕方…男性保育士がいる場合教えやすいが、女性の保育士では厳しいので、家庭との連携が必須になる。</li> </ul>

全国保育士会「社会の変化に対応した保育内容等に関する特別委員会」作業シート

～「1歳以上3歳未満児の保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」

ア. 心身の健康に関する領域「健康」

- ① 明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ。
- ② 自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。
- ③ 健康、安全な生活に必要な習慣に気付き、自分でしてみようとする気持ちが育つ。

保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点（「中間のとりまとめ」に向けて） ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要
	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等		
④ 様々な食品や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食事や間食を楽しむ。	④ ・家庭では好きなものだけを食べている子どもが多く、給食を見た目で判断して食べない子どももいる。  ・家庭での食生活や生活リズムの乱れが園の中での課題に直結している。  ・1歳児は食べ方に差がある。	④ ・パーテーションなどを使用し、感染対策をして食事介助を行い、子どもたちは黙食をしている。保育者が一緒に食事をしながらマナー等を知らせ、食事を楽しむことが困難。 ・食事場面ではコロナ以前より消毒などの徹底は図っているが、方法・頻度など最適か不安な人も多い。 ・定員40人以下だと調理員は1名。園児に合わせた個別対応するにはかなり余裕がない状態で働いているため、保育士と連携が二の次になっている園もある。調理員は、園児と職員分を作っているため、園児数だけの配置基準は厳しい場合がある。食事は、テーブルを拭く、手を拭く、エプロンを付ける、介助する、食後の身支度を整える、早く食べたいと訴える子、テーブルや床を拭く、眠気を訴え泣く子への対応を6対1で行うため、実際は「ゆったりと」が抜け落ちる。	1歳以上3歳未満児保育／ア ・保育士数配置基準の法改正  ・衛生面で嘱託職員でもよいので看護師や保健師の配置予算をつける  ・衛生面で嘱託職員でもよいので看護師や保健師の配置予算をつける	vi <b>個別対応が可能な体制の整備</b>  ・この年齢は発達の個人差が大きく、入園時期によっては、家の中だけで過ごしているケースもあることが考えられる。そのため意識的に体を使った遊びをするなど、個々にあった活動を考える必要がある。 ・生活様式の変化により、ハイハイや伝い歩きが乳児期に十分にできていなかった場合、園で保障する必要がある。特に配慮を必要とするこの場合、定型発達の子より、体幹等の発達がゆっくりなため、その辺りの知識も保育士には必要なのでは。(個別配慮として) ・配慮の必要な子の受入も積極的に行うのであれば、その辺りの内容にも踏み込んでほしい。(配置基準の見直し)
⑤ 身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身に付く。	⑤ ・手洗い場が少なく、待ち時間を少なくするために丁寧な手洗い習慣ができていない。	⑤ ・子どもの鼻水を拭いた後の手指消毒を徹底している。  ⑤ ・コロナ禍により、より一層、清潔に気を使っている。  ・手洗いなどの清潔習慣もコロナ以前より取り組みつつ、現状が最適か不安な人も多い。	・コロナ関係で職員が休んだ場合の休園措置、当該親子に対する保育の保障を行政レベルでしてほしい  ・生活習慣や消毒の適切な方法・頻度・内容などについて、医療関係者からの指示のもとに行う  ・小規模であっても、現状の緩和措置で、『保育』として十分なのか、学識を含めた行政レベルで点検・検討。	vii <b>楽しい食事の場の提供</b>  ・コロナ禍において人と楽しく話しながら食べる機会が少なくなっていることも踏まえ、食事は本来「楽しい場」であること。園で初めての食材に触れたり、食事の場での体験が子どもの今後の人生においても大きく関わっていくことも視野に入れることも必要。 ・感染対策により、ランチルームでの給食が保健所からストップがかかり、保育には必要であり重要であるということを説明はしたが、やはりそこは丁寧に説明すべきである。
⑥ 保育士等の助けを借りながら、衣類の着脱を自分でしようとする。	⑥ ・保護者が忙しいことから、家庭で着脱をする経験が少ない。そのため、保育士が要領を知らせながら見守り、自分でできたという満足感が持てるようにしている。  ・収納・着脱などの場所が限られており、自発的な着脱や集中して行うことの難しさがある。	⑥ ・保育士は手指の消毒を欠かさず、援助を行っている。  ・保育士の不足などで、子ども一人一人のペースに合わせたゆとりあるかかわりができにくい。	・未満児保育において、異年齢ワンフロアが適切か、そのために必要な別室(多目的空間、保育士休憩室など)の整備について学識を含めた行政レベルで点検・検討。  ・この時期の保育士とのかかわり、子ども同士のかかわりの重要性を保護者に伝え、コロナ禍であっても必要な保育であることを、学識の援助も受け発信。	
⑦ 便器での排泄に慣れ、自分で排泄ができるようになる。	⑦ ・育児情報が氾濫しており、保護者が記事通りにトイレトレーニングを行うことで、かたくなに便器に座ることを嫌がる子どもがいる。結果排泄の自立が遅くなっている。  ・家庭では男児も座って排尿することが多く、立って排尿する事に慣れるまで時間を要する。  ・おまるを置く場所がない。紙おむつでは濡れた感覚が分からず、外からも分かりにくい。	⑦ ・保育士の不足などで、子ども一人一人のペースに合わせたゆとりあるかかわりができにくい。	・行事や保育以外にも、書類作成も年間計画を立て取り組む。その際、年間を通して業務時間のバランスを整える。  ・合同の時間帯にも対応がとれるように、寝具や簡易ベットを合同保育室に設置したり、すぐ取り出せるように配置する。  ・メニューによって人手が必要な時には、子育て支援員さんに2時間程度、調理業務をお願いする。 フリー職員を配置し、書類仕事や給食時の手が必要な時などにクラスへ入るなど対応する。	

～「1歳以上3歳未満児の保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」				
ア. 心身の健康に関する領域「健康」				
① 明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ。 ② 自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。 ③ 健康、安全な生活に必要な習慣に気付き、自分でしてみようとする気持ちが育つ。				
保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点（「中間のとりまとめ」に向けて） ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要
	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等		
<b>内容の取扱い</b> ① 心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、子どもの気持ちに配慮した温かい触れ合いの中で、心と体の発達を促すこと。特に、一人一人の発達に応じて、体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。	・車での移動が中心となり”歩く”経験が減り、体力が落ちてきていると感じる。  ・身近に相談できる人がいない等、親にも支援が必要な場合がある。様々な虐待を想定し、早めに子どもたちのサインをキャッチし、援助していく事が必要。  ・園庭がない園の場合、散歩に行くが、昨今の園外保育における事故等で、散歩に出るのを躊躇している園もある。 ・就労支援のための受け皿確保を目的とした小規模園は配置基準が緩やかであるため、体を動かすための場所の確保や各年齢に応じた保育の提供が難しい。	・感染防止に配慮して、運動遊具や用具などこまめに消毒している。  ・スキンシップを取る際は必ず保育士も子どもも手洗い、消毒等に心がけ感染の予防に努める。  ・コロナの流行により、保護者が園舎入室が出来なくなった。園での様子を見たり、伝わりにくくなったりする。  ① ・コロナも同様で、感染対策として、園外へ出なくなってしまう  ・コロナ禍により保育内容を変更したといったことは、基本的な生活習慣についてはほとんどない。しかし、もともと定数で配置されている保育士がコロナ関係で複数休むと大規模園のようなクラス間流用といった柔軟な対応もできず、子どもの安全だけをとにかく見守るという託児的な対応になりがちである。また、設置基準に応じた環境であっても、年齢に応じた対応や一人一人の状態に応じた対応を行う多目的なスペースがなく、保護者に向けてもソーシャルディスタンスの確保などには気を遣っている状態。	1 歳 以 上 3 歳 未 満 児 保 育 ／ ア	

～「1歳以上3歳未満児の保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」

ア. 心身の健康に関する領域「健康」

- ① 明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ。
- ② 自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。
- ③ 健康、安全な生活に必要な習慣に気付き、自分でしてみようとする気持ちが育つ。

保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点（「中間のとりまとめ」に向けて） ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要
	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等		
内容の取扱い ② 健康な心と体を育てるためには望ましい食習慣の形成が重要であることを踏まえ、ゆったりとした雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。なお、食物アレルギーのある子どもへの対応については、嘱託医等の指示や協力の下に適切に対応すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・核家族や働き方の変化により、家族そろっての食事が少なくなり、楽しく食べる経験が減っているのではないかと感じる。</li> <li>・様々な種類のアレルギーに対応しなくてはならず、他の子と見た目が変わらない食事の形状にしたリ、誤食を防ぐためよく確認してから提供する。</li> <li>・上記同様、好ましい雰囲気を作り上げる環境の確保や、食物アレルギーのある子どもにとっての好ましい場所とかかわりの確保などが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・咀嚼を促す際に職員がマスクをしているため、口の動きを見せられず、伝えることが難しい。長時間の食事介助が濃厚接触にあたると言われると焦ってしまう。</li> <li>・食物アレルギー食品が1つの場合は、書面（献立表）にて4者で除去確認を行い提供をしている。</li> <li>・仕事の激変や収入減などで生活のリズムが変わってしまった場合もある。親のストレスが子どもの発育に影響を受けないように、しっかりと食事の面でフォローする。</li> <li>・コロナ禍により保育内容を変更したといったことは、基本的な生活習慣についてはほとんどない。しかし、もともと定数で配置されている保育士がコロナ関係で複数休むと大規模園のようなクラス間流用といった柔軟な対応もできず、子どもの安全だけをとにかく見守るという託児的な対応になりがちである。また、設置基準に応じた環境であっても、年齢に応じた対応や一人一人の状態に応じた対応を行う多目的なスペースがなく、保護者に向けてもソーシャルディスタンスの確保などには気を遣っている状態。</li> <li>・せめて、最低基準に+1名いれば、ゆったりと対応できる場面は増える。給食の時間が早くなりがち。1100スタートとか、1130スタートとか。</li> </ul>	1歳以上3歳未満児保育／ア	
③ 排泄の習慣については、一人一人の排尿間隔等を踏まえ、おむつが汚れていないときに便器に座らせるなどにより、少しずつ慣れさせるようにすること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットやメディアからトイレトレーニングに関しての情報を得ている保護者が多く子どもの発達とあっていない場合がある。</li> <li>・発達上の課題もあり、個人差が大きい。</li> <li>・保育士の不足から一人一人に合わせた十分なかわりができていないことも多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により保育内容を変更したといったことは、基本的な生活習慣についてはほとんどない。しかし、もともと定数で配置されている保育士がコロナ関係で複数休むと大規模園のようなクラス間流用といった柔軟な対応もできず、子どもの安全だけをとにかく見守るという託児的な対応になりがちである。また、設置基準に応じた環境であっても、年齢に応じた対応や一人一人の状態に応じた対応を行う多目的なスペースがなく、保護者に向けてもソーシャルディスタンスの確保などには気を遣っている状態。</li> <li>・個人対応をしている間、集団を見る職員が居ない。なので、全員をトイレに連れていき、個人の希望に合わせてトイレに座るなど試みる。タイミングがずれその後に訴えた園児には「さっきトイレに行ったでしょ」という対応になってしまう。</li> </ul>		

～「1歳以上3歳未満児の保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」				
ア. 心身の健康に関する領域「健康」				
① 明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ。 ② 自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。 ③ 健康、安全な生活に必要な習慣に気付き、自分でしてみようとする気持ちが育つ。				
保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点（「中間のとりまとめ」に向けて） ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要
	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等		
<b>内容の取扱い</b> ④ 食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなど、生活に必要な基本的な習慣については、一人一人の状態に応じ、落ち着いた雰囲気の中で行うようにし、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重すること。また、基本的な生活習慣の形成に当たっては、家庭での生活経験に配慮し、家庭との適切な連携の下で行うようにすること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもつの性能が上がり、家庭で長時間交換しない家庭があり、清潔になる心地よさが感じにくく、トイレトレーニングが進みづらい。</li> <li>・生活習慣の獲得のために、子どもが自ら行う姿を見守る必要性を伝えたいが、保護者が忙しく、十分な会話や連携の時間が取りづらい。</li> <li>・保育時間が長く、保護者が子どもにかける時間は短くなっている。さらに、仕事以外の時間も母親一人に負担が強られる場面が多い事からストレスを感じやすくなる。</li> </ul> ④ <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記にも記載したが、子どもの発達の理解が、保護者がない場合もある。</li> <li>・保育士数の関係、異年齢の関係などから、一人一人の状態に応じた適切な保育が提供できないこともある。また、小規模保育園の特性から、託児施設と誤解している保護者も少なくないため、家庭との連携が病気・ケガの共有などの表面的なものになっている。</li> <li>・「家庭との連携」ということをはき違えて、家庭側も努力が必要、家庭側へ頑張りを要求にならないよう配慮が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関での受け入れにしているため、保育士がゆとりをもって荷物の準備ができるように工夫している。</li> <li>・一人一人の状態、様子を把握しながら、自分でしようとする気持ちを大切に、援助を行っているが、家庭との連携がコロナ禍で取りにくくなっていることはある。</li> <li>・家庭との連携は登降園のみの短い会話、また、連絡帳のやりとりで取れるようにし、詳しく書くように心がける。</li> <li>・コロナ禍により保育内容を変更したといったことは、基本的な生活習慣についてはほとんどない。しかし、もともと定数で配置されている保育士がコロナ関係で複数休むと大規模園のようなクラス間流用といった柔軟な対応もできず、子どもの安全だけをとにかく見守るといった託児的な対応になりがちである。また、設置基準に応じた環境であっても、年齢に応じた対応や一人一人の状態に応じた対応を行う多目的なスペースがなく、保護者に向けてもソーシャルディスタンスの確保などには気を遣っている状態。</li> </ul>	1歳以上3歳未満児保育 / ア	

～「1歳以上3歳未満児の保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」					
イ. 人との関わりに関する領域「人間関係」					
① 保育所での生活を楽しみ、身近な人と関わる心地よさを感じる。					
② 周囲の子ども等への興味や関心が高まり、関わりをもとうとする。					
③ 保育所の生活の仕方に慣れ、さまりの大切さに気付く。					
保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点(「中間のとりまとめ」に向けて) ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要	
	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等			
内容	① 保育士等や周囲の子ども等との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる。	・就労形態が多様化され、延長保育、休日、病児保育など利用する子どもは、長時間保育、生活する場所が変わることもあり、情緒の安定が難しい時もある。 ① ・核家族化、子どもとの時間が取れない保護者がいる中で保育園で家庭的な保育を目指す。 ・1学年の人数は大規模園に比べるとこの内容が達成されやすい。しかし、異年齢の難しさがある。	・保育者は日常的にマスクをするので、子どもとの安定した関係を築く為、マスクを外した笑顔の写真を名札につけて胸に着用している。 ① ・保育士や友だちと過ごすことが希薄にならないよう言葉かけや会話のやりとりに十分に配慮する。 ・コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、ゆとりがない悪循環に陥る。	1歳以上3歳未満児保育 / イ ・保育士の確保が難しくなり、短時間パートの保育士や臨時職員が増えている。子どもの育ちを保障するためには、保育内容の理解や資質の向上のための研修体制の構築が必要。 ・育児休業や子育て世帯の方の就労時間の緩和など、子育てをしやすい制度の確立。 ・コロナ禍でスキンシップが難しくなる中、友だちにも違う考え、気持ちがあることに気付けるように、保育所(園)で他者と関わる体験がとても重要になると思う。	i <b>生活様式の変化等を踏まえた人間関係の基礎づくり</b> ・保育者には、より落ち着いた(安心できる)雰囲気求められる ・決まりの大切さ…繰り返し知らせていくことで、3歳~4歳位で、大切さによりやく気付くのでは。決まりの大切さは、保育者の言葉掛けで知る程度ではないか。配慮が必要な子にはもっと難しいため、その視点も必要ではないか。 ・令和AI時代になり、人との関係の基礎を築く保育所の役割は重要
	② 保育士等の受容的・応答的な関わりの中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす。	・保育士数がギリギリであるものの、丁寧なかかわりに努めている。 ②	・濃厚接触のリスクを考慮すると、今までのように十分なスキンシップが取りづらい。 ② ・コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、ゆとりがない悪循環に陥る。 ・食事や衣服の着脱、排泄などと、職員がやらなければならない仕事(片づけや、次の準備、配膳など)を同時進行で取り組むような場面では、6人に1人では声を荒げることがあるようだ。	・保育士数配置基準の法改正 ・コロナ関係で職員が休んだ場合の休園措置、当該親子に対する保育の保障を行政レベルでしてほしい ・小規模であっても、現状の緩和措置で、『保育』として十分なのか、学識を含めた行政レベルで点検・検討。	ii ・1歳児であっても1:1の関わりが必要な場面があり、柔軟に対応できる人員配置に見直すことが必要。
	③ 身の回りに様々な人がいることに気付き、徐々に他の子どもと関わりをもつ遊ぶ。	・核家族化でコミュニケーションがとりにくくなっていることもあり、孤立する子どもがいる。 ③ ・一人っ子が多くなり、集団生活に期待されるが、小規模には3歳以上児がいない。	・異年齢との交流に制限があり、親しみを持つ機会が減少。 ③ ・制止することはないが、あまりに密の状態などには気を配っている。	・この年齢に必須の消毒の適切な方法・頻度・内容などについて、医療関係者からの指示のもとに行う ・この時期の保育士とのかかわり、子ども同士のかかわりの重要性を保護者に伝え、コロナ禍であっても必要な保育であることを、学識の援助も受け発信。 ・生活の学びについては、生活時間だけに体験を組み入れると、時間に振り回されることが多いので、あえて、設定保育の中に実践を組み入れることで、生活時間は職員が気兼ねなく手伝うことができる。	iii 人は信頼できるものだという基礎を築くために、保育者の役割は重要
	④ 保育士等の仲立ちにより、他の子どもとの関わり方を少しずつ身につける。	・周囲に同年齢の友だちがいない子は経験が少なく、トラブルにつながりやすい。 ④ ・異年齢間におけるかかわり方は難しく、それをこの時期の子どもに求めていくことは無理なのではないか。	・密を防ぎつつ、友だちと一緒に遊びこめるように、間隔を広くとったコーナー配置を見直した。 ④ ・制止することはないが、あまりに密の状態などには気を配っている。 ・園児の行動理解など保育者の高いスキルが求められる。すべての保育者ができることではない。	・指導係へいつでも相談できる関係を築く。不適切な保育が見られた時には、即園内研修を実施し、正しい保育を共有する。 ・年長児だけとは限らない。	iv <b>自我の芽生えの受け止め方。家庭への発信</b> 専門職の立場からこの時期の子どもについて、また「しんどさ」だけでなく、この時期の面白さ、楽しさも伝えていく
	⑤ 保育所の生活の仕方に慣れ、さまりがあることや、その大切さに気付く。	・子どもの育ちや個性により、なかなか社会のルールが身に付きにくい子どもがいる。 ⑤ ・この年齢に、決まりやその大切さに気づくことを求めるのは難しいが小規模だともっと難しい。	・一般的なコロナ感染予防の決まりが保育園のこの年齢にも必要かどうかわからないでいる。 ⑤	・保育所は人が人を育てる場であることを、保育者自身が改めて自覚する必要がある。	

～「1歳以上3歳未満児の保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」				
イ. 人との関わりに関する領域「人間関係」				
① 保育所での生活を楽しみ、身近な人と関わる心地よさを感じる。 ② 周囲の子ども等への興味や関心が高まり、関わりをもとうとする。 ③ 保育所の生活の仕方に慣れ、きまりの大切さに気付く。				
保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点（「中間のとりまとめ」に向けて） ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要
	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等		
内容 ⑥ 生活や遊びの中で、年長児や保育士等の真似をしたり、ごっこ遊びを楽しんだりする。	⑥ ・小規模だと、2歳児には年長児がおらず、そのまねをする機会が少ない。	⑥ ・マスクをしている為、保育士等の真似をしたりでは表情がわかりにくい。 ・感染防止のためにクラス単位で保育をしているため、以上児クラスとの関わりは持っていない。 ・室内での交流が難しいため、戸外で交流の機会を作っている。 ・異年齢児との関りが減ってきているので、距離をとりながら行事での年中、年長児の姿を見てもらう。 ・他クラスの様子も楽しめるようYouTube配信などを行っている。 ・コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、ゆとりがない悪循環に陥る。	1歳以上3歳未満児保育 / イ	
内容の取扱い ① 保育士等との信頼関係に支えられて生活を確立するとともに、自分で何かをしようとする気持ちが旺盛になる時期であることに鑑み、そのような子どもの気持ちを尊重し、温かく見守るとともに、愛情豊かに、応答的に関わり、適切な援助を行うようにすること。	① ・1, 2歳児6:1の職員配置で応答的に適切な援助が難しい時がある ・保育士の人数が定数の配置の中、その子どもにかかわる以外の仕事(別の子どもの対応、掃除、配膳など)をせざるを得ない場面があり、適切な援助ができていないこともある。	① ・玩具の衛生管理に努めた。 ・コロナ禍でスキンシップを行うことが難しくはなっているが、できたことには大いに褒め、自分がしていることに自信が持てるように接していく。 ・コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、子ども一人一人に応答的にかかわることができなくなることもある。友達や小さい子に対して乱暴であったり、すぐに手が出てしまったり、といった姿に対しても、リアルタイムに適切な対応ができない場合もある。また職員不足は、日常の子どもの様子を伝えあったり、どのようにしていくか方向性や考え方を話しあう時間・機会をなくしたり減らしたりすることにもつながっている。 ・子どもの保育と、その他の仕事が混在しているとこれは出来ない。		

～「1歳以上3歳未満児の保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」

イ. 人との関わりに関する領域「人間関係」

- ① 保育所での生活を楽しみ、身近な人と関わる心地よさを感じる。
- ② 周囲の子ども等への興味や関心が高まり、関わりをもとうとする。
- ③ 保育所の生活の仕方に慣れ、きまりの大切さに気付く。

保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点（「中間のとりまとめ」に向けて） ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要
	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等		
内容の取扱い ② 思い通りにいかない場合等の子どもの不安定な感情の表出については、保育士等が受容的に受け止めるとともに、そうした気持ちから立ち直る経験や感情をコントロールすることへの気付き等につなげていけるように援助すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に"トラブルを経験しての育ち"が伝わりにくく、苦情につながる場合がある。</li> <li>・保護者が就労と子育てで忙しく、余裕がない時は、子どもの思いを聞かずに、善悪を判断することがあり、保育所でも感情を出せない子どももいる。保育士が子どもの思いに気づき寄り添うことで、感情が出せるようにしている。</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思い通りになるまで泣き通そうとする子どもが増えてきているように感じる。家庭で我慢が出来ていないので、気持ちのコントロールが少しずつ出来るように導いていく。</li> <li>・仕事のため長時間保育になる場合、気持ちが満たされておらず不安定になりがちなので、スキンシップをしたり要求に応え関わっている</li> <li>・一部の子どもには、母親からの愛情不足・育児を知らないための放任や過保護、など現代社会における家庭環境の問題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染や濃厚接触者となり保育士の休みが重なることと担任以外の職員（短時間保育士等）がクラスに入ることになる。子どもの性格や発達、かわり方などのポイントが分からず、十分に援助ができないこともある。</li> <li>・消毒や感染症の対応に忙しく、保育士の育成ができていないことで、保育内容への理解や必要な援助の方法などの習得が難しい。</li> <li>・コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、子ども一人一人に応答的にかかわることができなくなることもある。友達や小さい子に対して乱暴であったり、すぐに手が出てしまったり、といった姿に対しても、リアルタイムに適切な対応ができない場合もある。また職員不足は、日常の子どもの様子を伝えあったり、どのようにしていくか方向性や考え方を話しあう時間・機会をなくしたり減らしたりすることにもつながっている。</li> <li>・個別配慮が必要な子どもがいる場合、職員1人がかなり対応に追われる。10人に1人とも言われることを踏まえると、クラスの規模によりクラス単位の加算が必要ではないかと思われる。</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、子ども一人一人に応答的にかかわることができなくなることもある。友達や小さい子に対して乱暴であったり、すぐに手が出てしまったり、といった姿に対しても、リアルタイムに適切な対応ができない場合もある。また職員不足は、日常の子どもの様子を伝えあったり、どのようにしていくか方向性や考え方を話しあう時間・機会をなくしたり減らしたりすることにもつながっている。</li> </ul>	1歳以上3歳未満児保育 / イ	
③ この時期は自己と他者との違いの認識がまだ十分ではないことから、子どもの自我の育ちを見守るとともに、保育士等が仲立ちとなって、自分の気持ちを相手に伝えることや相手の気持ちに気付くことの大切さなど、友達の気持ちや友達との関わり方を丁寧に伝えていくこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己と他者の物がわからず、全て自分の物にしようとするが増えてきているので、保育士が仲立ちし、少しずつでも他者の気持ちもあることを伝えていけるようにする。</li> </ul> <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模園では、向かい合う相手が同年齢とは限らず、2歳児対0歳児だと、2歳児にとっては納得いかないままの我慢、0歳児にとっては意味のない我慢を強いられることもあり、課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、子ども一人一人に応答的にかかわることができなくなることもある。友達や小さい子に対して乱暴であったり、すぐに手が出てしまったり、といった姿に対しても、リアルタイムに適切な対応ができない場合もある。また職員不足は、日常の子どもの様子を伝えあったり、どのようにしていくか方向性や考え方を話しあう時間・機会をなくしたり減らしたりすることにもつながっている。</li> <li>・保育士等の仲立ちがとても大切な時期であるが、個別対応と集団対応は同時に行うことが出来ない</li> </ul>		



全国保育士会「社会の変化に対応した保育内容等に関する特別委員会」作業シート

～「1歳以上3歳未満児の保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」

ウ. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

- ① 身近な環境に親しみ、触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつ。
- ② 様々なものに関わる中で、発見を楽しんだり、考えたりしようとする。
- ③ 見る、聞く、触るなどの経験を通して、感覚の働きを豊かにする。

保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点（「中間のとりまとめ」に向けて） ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要	
	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等			
内容	① 安全で活動しやすい環境での探索活動等を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異常な暑さから、戸外での活動を制限しなければならない。</li> <li>① いろいろな環境下で、物に触れることを嫌がる親が増え、自由に探索活動をできない経験不足な子どもいる。</li> <li>・敷地内は自由に探索できるが、限りがあるため、十分とは言えないのかもしれない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で、園外散歩にいけませんが、園内に自然に触れる場所があるので散歩をしたり、草花に触れたりして遊んでいる。</li> <li>① 密にならないように小人数で過ごしたり距離を保ったりしている。</li> <li>・安全のためには消毒の必要性もあり、活動を規制している場面もある。</li> </ul>	<p>1歳以上3歳未満児保育／ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育環境改善事業 施設の安全や保育環境を整えるための事業</li> <li>・物に触れる機会が減る中で、いかに子どもたちに経験を積むことができるのか、模索している。感染予防に努めた安全な環境の中で、いろいろな経験ができるように工夫をしている。</li> <li>・保育士の負担軽減のため、保育体制強化事業（拡充）保育に係る周辺業務を行う人の配置促進。</li> <li>・子どもたちが家庭で経験できないことが増えたので、その中でも園内で行事の大切さをわかりやすく伝えたり、面白さを知らせたりしながら、子どもたちの感性に触れられるようにしている。</li> <li>・この年齢に必須の消毒の適切な方法・頻度・内容などについて、医療関係者からの指示のもとに行う</li> <li>・この時期の適切な玩具の重要性を保護者に伝え、学識の援助も受け発信。</li> <li>・小規模であっても、現状の緩和措置で、『保育』として十分なのか、学識を含めた行政レベルで点検・検討。</li> <li>・小規模保育施設に対する研修の充実、研修時の代替え保育士の確保とその予算、小規模同士の横のつながりによる情報交換と共有</li> <li>・孤立している家庭に対するかかわりの重要性を、地域の自治会や公民館、民生委員などと連携を取りながら、より良い経験の機会を確保し、豊かな育ちにつなげる。</li> <li>・その都度、職員へは指導を行う。養成校においては、発表や授業中における言葉遣いや表現力がより豊になるようにご指導頂きたい。</li> </ul>	<p><b>気象等による環境の変化に対応した柔軟な保育環境の構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域によっては、夏の異常な暑さで園庭やプール遊び、水遊びの制限、また冬の遊びの制限等もある中、園内において子どもたちに十分身体を使って遊びを展開できるような工夫が必要</li> <li>・親子で気軽に出掛けられない中、家の中だけで過ごすことが多くなり、運動不足もさることながら、自然に触れることが無くなり、それに伴う経験不足の子どもたちへいかにして様々な遊びを保障するか。</li> <li>・絵本より、ビデオやYouTubeに触れるのが早い子どもたち 自然の中の遊びやで五感を刺激して、情緒の安定をはかり、非認知能力を育てる。</li> <li>・猛暑や新型コロナウイルスの影響により、これまでとは異なる保育環境の設定に大変な労力がかかっている。今後もこのような変化が起こる可能性があり、これを見越した労働環境の改善が必要（人員配置の見直し）。</li> </ul>
	② 玩具、絵本、遊具などに興味をもち、それらを使った遊びを楽しむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>② 絵本離れから、家庭で読まれない子が増えている為、絵本を集中して見られない子がいる。</li> <li>・家庭での遊びが機械音や光を放つ電子玩具に変化し、より刺激の強いものを好むようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消毒が出来る玩具・手作り玩具の見直しを行い、こまめに消毒している。</li> <li>② 安全のためには消毒の必要性もあり、活動を規制している場面もある。</li> </ul>		
	③ 身の回りの物に触れる中で、形、色、大きさ、量などの物の性質や仕組みに気付く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>③ 現代の親は、触れて学ぶことを避けて、SNSやTVなど見ることばかりが増え、実際に触れる機会が減ってきている。</li> <li>・知育玩具の普及により、表面的な数量や色の名前などが言えることに親は喜びを感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③ 身の回りのものに触れる際、消毒をしてから触れるため、自由に触れられない環境下にある。</li> <li>・安全のためには消毒の必要性もあり、活動を規制している場面もある。</li> </ul>		<p>iii</p> <p><b>バーチャルな時代における実体験の保障</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもは体験して学ぶということを踏まえ、自然物と意識的にふれあい経験させることの重要性を感じる。</li> </ul>
	④ 自分の物と人の物の区別や、場所的感覚など、環境を捉える感覚が育つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>④ 核家族化が進み、いろいろな人と関わる機会が少なくなったり、一人っ子などから、物を与えられ、人と共有することが減少している。</li> <li>・ロッカー・かばんなどが別空間にあり、日常的に自分の持ち物を管理していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>④ 人との共有が難しくなったり、間隔を取って過ごすことにより、この感覚を育てることが難しくなってきた。</li> <li>・安全のためには消毒の必要性もあり、活動を規制している場面もある。</li> </ul>		
	⑤ 身近な生き物に気付き、親しみをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤ 田んぼの減少により虫なども少なくなり、実物と触れ合える機会が少なくなっている。</li> <li>・保育士の工夫により、身近な昆虫を育てているが、管理やえさの確保が難しくなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤ コロナ禍で、家庭で出かける機会が少なくなっている。</li> </ul>		
	⑥ 近隣の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑥ 地域との関係を持たずに過ごす家庭が増え、子どもたちも経験していないことがある。</li> <li>・日本の伝統行事や祝い事を行う家庭が減っているので、伝統文化などに興味がある子どもが少なく、知らない子どももいる。</li> <li>・年齢的なことと、小規模であることで、近隣に行く機会や行事が少ないが、連携には努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑥ 近隣の生活に触れる機会はないが、保育所内で季節を感じられるように自然物を飾ったり、季節や行事の絵本を読み聞かせたりして関心が持てるようにしている。</li> <li>・感染防止の為、地域の行事参加ができなく、散歩での地域の人との触れ合いもできない。</li> <li>・コロナ禍で地域の行事がなくなり、経験の幅が狭くなる</li> <li>・コロナ禍で、家庭で出かける機会が少なくなっている。</li> </ul>		

～「1歳以上3歳未満児の保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」				
ウ. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」				
① 身近な環境に親しみ、触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつ。 ② 様々なものに関わる中で、発見を楽しんだり、考えたりしようとする。 ③ 見る、聞く、触るなどの経験を通して、感覚の働きを豊かにする。				
保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点（「中間のとりまとめ」に向けて） ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要
	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等		
内容の取扱い	① 玩具などは、音質、形、色、大きさなど子どもの発達状態に応じて適切なものを選び、遊びを通して感覚の発達が促されるように工夫すること。	・研修をうけ、玩具の質と量の充実を図っているが、家庭での遊びがテレビ・ビデオをも乗り越し、スマホ・タブレットなどへ変化している。ギャップがある。 ①	・子どもにあった手作り玩具を作成し、共有の玩具は感染対策の為にこまめに消毒を行うことで、自由に使うことが以前より減った気がする。 ・コロナ禍で、ショッピングの機会が減り、子どもが実際に見て、玩具を買ってもらう機会が減っているようだ。家にいることが多く、ネットなどをみせてしまう ①	1歳以上3歳未満児保育／ウ
	② 身近な生き物との関わりについては、子どもが命を感じ、生命の尊さに気付く経験へとつながるものであることから、そうした気付きを促すような関わりとなるようにすること。	・生き物に触れることを避ける家庭があり、生き物には命があり、いつかなくなってしまうという経験ができないでいる子がいる。 ・園では、アゲハチョウを孵化させたり、カブトムシを卵から育てたり、といった活動があるが、家庭では環境的になかなか触れ合う機会がないようである。 ②	・都会で育った保護者自身が生き物を捕えたり飼ったりした経験がなく、コロナ感染の誤解もあって、生き物に対しマイナス要素があるかもしれない。 ②	
	③ 地域の生活や季節の行事などに触れる際には、社会とのつながりや地域社会の文化への気付きにつながるものとなることを望ましいこと。その際、保育所内外の行事や地域の人々との触れ合いなどを通して行うこと等も考慮すること。	・地域との関係を避けて、過ごす家庭が多くなり、季節の行事を知らないで過ごす子が多くなった。そのため園内で知らせる工夫をしている。 ・核家族化が進み、季節ごとの伝統的な行事への関心が薄れており、保育所の役割が大きい。 ・核家族化や転勤等の理由から地元の方との交流なく過ごしている家庭も多く、また、小規模だと地域や季節に対応した行事なども少なく、機会を逃している。 ③	・通常の近隣への散歩は可能だが、地域の高齢者施設の訪問等、日常的に行っていたことができなくなった。再開の目途が立たない。 ・園外に出ることが難しく、また、地域の方を迎え入れることもできなかった為、地域の方々との交流ができなかった。 ・コロナ禍で園外活動に制限があり、実際に近隣の生活などを見る機会がなくなっている。絵本などを通して生活の様子や町や店の様子などを知らせている。 ・コロナ禍で、地域の行事が激減していたり、外出の機会が少なくなっていたりして、つながりや文化に触れる経験が減っているようだ。 ・地域の行事へ参加する際、「出来栄評価」となることは避ける。 ③	

全国保育士会「社会の変化に対応した保育内容等に関する特別委員会」作業シート

～「1歳以上3歳未満児の保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」

エ. 言葉の獲得に関する領域「言葉」

- ① 言葉遊びや言葉で表現する楽しさを感じる。
- ② 人の言葉や話などを聞き、自分でも思ったことを伝えようとする。
- ③ 絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる。

保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点（「中間のとりまとめ」に向けて） ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要	
	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等			
内容	① 保育士等の応答的な関わりや話しかけにより、自ら言葉を使おうとする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭でTVなどで一方的に耳にする言葉を意味を理解せずに使用する子どもがいて、気になる。</li> <li>①</li> <li>・保育士の不足によるかかわりの不十分さ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者のマスク使用により、口元が見えず模倣しにくいいため、必要に応じてマウスシールドを使用する。</li> <li>①</li> <li>・コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、ゆとりがない悪循環に陥る。</li> </ul>	<p>1歳以上3歳未満児保育 / エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士の配置増員。</li> <li>・保育士の資質の向上のための研修や研修を受けるための体制を構築する。</li> <li>・対人援助職である保育士がやりがいをもって仕事に臨める体制づくり 処遇の改善 ICTを活用した業務システムの導入</li> <li>・いろいろな模倣遊びを通し、生活で経験する言葉をつかえるので、普段から保育者自身が正しい言葉を使って、手本になるように意識している。</li> <li>・語彙不足は、いま問題となっている。子どもが考えて、言葉で伝えられるように、保育者が待ち、子どもの気持ちを引き出しながら、言葉のやり取りができるように工夫したり配慮をしたりする必要がある。</li> <li>・保育士数配置基準の法改正</li> <li>・小規模であっても、現状の緩和措置で、『保育』として十分なのか、学識を含めた行政レベルで点検・検討。</li> <li>・未満児保育において、異年齢ワンフロアが適切か、そのために必要な別室(多目的空間、保育士休憩室など)の整備について学識を含めた行政レベルで点検・検討。</li> <li>・コロナ関係で職員が休んだ場合の休園措置、当該親子に対する保育の保障を行政レベルでしてほしい</li> <li>・小規模保育施設における消毒の適切な方法・頻度・内容などについて、医療関係者からの指示のもとに行う</li> <li>・言葉の育ちについての研修の充実と、それらを話し合い提供するための会議の場の保障</li> </ul>	<p>言葉のやりとりの面白さ、楽しさを知ることのできる関わりの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建物や反響するせいか「キヤー」と叫ぶ子が多かったり、不明瞭な言葉に対してどう答えていいかわからない保護者がいる。保育者が意識して丁寧に言葉でのやりとりをすることで、子どもがやり取りの楽しさを知ることが大切。</li> <li>i</li> <li>・語彙数の問題/生まれた時から、スマホやYouTubeが当たり前の子どもたち。絵本の読み聞かせの経験も少ない子どもたち。現在当園での1歳児クラスの園児は、月齢が低い子どもが多いせいもあるが、発音が不明瞭で、語彙数も少ない。全体的に発達がゆっくりになっているように感じる。</li> <li>・丁寧な関わりができる体制の確保のため、人員配置や質の向上のための研修の充実が必要。</li> </ul>
	② 生活に必要な簡単な言葉に気付き、聞き分ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の使い方が変化している中で、生活の場面で必要な言葉を保育士が意識的に使うことが必要となる。保育士の語彙力の向上が必要。</li> <li>②</li> <li>・テレビなどの影響を受けやすく、不適切な言葉も使おうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、ゆとりがない悪循環に陥る。</li> <li>②</li> <li>・マスク越しのため、言葉が聞き取りづらい状況がある。単語のみで話すことが増えた。</li> </ul>		
	③ 親しみをもって日常の挨拶に応じる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親自身が挨拶しないのを見て、子ども自身もしないことがある。</li> <li>③</li> <li>・保護者世代の挨拶に対する習慣が子どもに影響。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルディスタンスを取りながらも、人としての挨拶を丁寧にすることは怠らないようにしている。</li> <li>③</li> <li>・コロナ禍で、家族以外の大人同士の挨拶を見聞きする機会が減ったかもしれない。</li> </ul>		
	④ 絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣をしたりして遊ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士間で保育内容を話しあう時間・場所の不足</li> <li>④</li> <li>・You-Tubeなどの動画に慣れすぎて、絵本や紙芝居などの止まっている絵から想像する力がなくなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士がマスクをしている影響か、模倣が少なくなっただよに感じる。</li> <li>④</li> <li>・コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、ゆとりがない悪循環に陥る。</li> </ul>		
	⑤ 保育士等とごっこ遊びをする中で、言葉のやり取りを楽しむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士の不足によるかかわりの不十分さと、ふざけて不適切な言葉を使おうとする。</li> <li>⑤</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の面白さを伝え、人との触れ合い、やり取りが楽しめるように工夫して遊ぶ環境づくりに努めている。</li> <li>⑤</li> <li>・コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、ゆとりがない悪循環に陥る。</li> <li>・保育者の言葉づかいは大切。「～のやつ(具体的な名称が思いつかない時にあいまいに表現する時)」、少ないが「超」「やばい」など適切に指導が必要。</li> </ul>		
	⑥ 保育士等を仲立ちとして、生活や遊びの中で友達との言葉のやり取りを楽しむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士の不足によるかかわりの不十分さと、ふざけて不適切な言葉を使おうとする。</li> <li>⑥</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、ゆとりがない悪循環に陥る。</li> <li>⑥</li> </ul>		
	⑦ 保育士等や友達の言葉や話に興味や関心をもって、聞いたり、話したりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士の不足によるかかわりの不十分さと、ふざけて不適切な言葉を使おうとする。</li> <li>⑦</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士はマスクをしているため言葉がはっきりと聞き取れるように意識して話すようにしている。</li> <li>⑦</li> <li>・コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、ゆとりがない悪循環に陥る。</li> </ul>		

～「1歳以上3歳未満児の保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」

エ. 言葉の獲得に関する領域「言葉」

- ① 言葉遊びや言葉で表現する楽しさを感じる。
- ② 人の言葉や話などを聞き、自分でも思ったことを伝えようとする。
- ③ 絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる。

保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点（「中間のとりまとめ」に向けて） ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要	
	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等			
内容の取扱い	① 身近な人に親しみをもって接し、自分の感情などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して、次第に言葉が獲得されていくものであることを考慮して、楽しい雰囲気の中で保育士等との言葉のやり取りができるようにすること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じように保育士が応答をしていても、親子での会話が少ない家庭は、感情を伝える言葉の習得や語彙を獲得することに差が見られる。</li> <li>・親が忙しくなり子どもの言葉に耳を傾けないことがあり、園では保育士に聞いてほしいとしゃべりすぎてしまう子がいる。人の話を聞けない子が増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者がマスクをしているため、言葉が聞き取りにくかったり表情が分かりにくかったりするので、声のトーンや動きに配慮している。</li> <li>・人との距離を取らなければならないが、一方的に発する環境はできるだけ作らずに、お互いのやり取りが持てるように、工夫をしている。</li> <li>・テレビを見せたり、スマホを見せたりして、家庭保育や休日の時間を過ごしているようだ。そのため、流行している言葉や面白い言葉に敏感に異常に反応し、使いたがる傾向がある。その言葉をまねることができていることに喜ぶ保護者の姿もある。また、言葉を育てること、そのためのツールとなる保育内容などを話しあいたくても、陽性や濃厚接触での休み、あるいは揃っていても消毒などに追われる状態もあり、不足している現状。</li> <li>・強制的な保育では育まれない。自然環境が豊かであると表現力が育まれる場面が増える。</li> </ul>	1歳以上3歳未満児保育／エ	
	② 子どもが自分の思いを言葉で伝えるとともに、他の子どもの話などを聞くことを通して、次第に話を理解し、言葉による伝え合いができるようになるよう、気持ちや経験等の言語化を行うことを援助するなど、子ども同士の関わりの中立ちを行うようにすること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の語彙が低下し、思うように言葉で伝えられずに、手が出てしまいトラブルになることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染や濃厚接触者となり保育士の休みが重なると、一人一人の子どもと、ゆっくり言葉のやり取りをするゆとりがない状況もある。</li> <li>・テレビを見せたり、スマホを見せたりして、家庭保育や休日の時間を過ごしているようだ。そのため、流行している言葉や面白い言葉に敏感に異常に反応し、使いたがる傾向がある。その言葉をまねることができていることに喜ぶ保護者の姿もある。また、言葉を育てること、そのためのツールとなる保育内容などを話しあいたくても、陽性や濃厚接触での休み、あるいは揃っていても消毒などに追われる状態もあり、不足している現状。</li> </ul>		
	③ この時期は、片言から、二語文、ごっこ遊びでのやり取りができる程度へと、大きく言葉の習得が進む時期であることから、それぞれの子どもの発達状況に応じて、遊びや関わり工夫など、保育の内容を適切に展開することが必要であること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノンコンタクトタイムも全く取れず、定数配置では11時間開所に対応するシフトを組んでも残業が発生することも多く、子どもの様子に対応した保育内容を話しあい機会が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染や濃厚接触者となり保育士の休みが重なると担任以外の職員（短時間保育士等）がクラスに入ることになる。遊びや関わり工夫などの共通理解が難しいこともある。</li> <li>・家庭で経験できないことを保育園で経験できるように、コロナ禍を理由にできないとせず、どうしたらできるかを保育士間で話し合っている。</li> <li>・テレビを見せたり、スマホを見せたりして、家庭保育や休日の時間を過ごしているようだ。そのため、流行している言葉や面白い言葉に敏感に異常に反応し、使いたがる傾向がある。その言葉をまねることができていることに喜ぶ保護者の姿もある。また、言葉を育てること、そのためのツールとなる保育内容などを話しあいたくても、陽性や濃厚接触での休み、あるいは揃っていても消毒などに追われる状態もあり、不足している現状。</li> </ul>		

～「1歳以上3歳未満児の保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」				
オ. 感性と表現に関する領域「表現」				
① 身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう。 ② 感じたことや考えたことなどを自分なりに表現しようとする。 ③ 生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる。				
保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点(「中間のとりまとめ」に向けて) ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要
	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等		
内容	① 水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ。	・衣服、家が汚れる等家庭で素材に触れて遊ぶことは減少、既製品玩具の使用が増えてきている。  ① ・楽しめてはいるが、ハード面で制約も多い。	・手洗い・消毒の習慣がついた反面、様々な感触に触れる経験が少なく、汚れることを拒む子どもが増えている。  ① ・飛沫からの感染や密を避ける為、プールでの水遊びが中止になる。  ・何でも自由に触れて楽しんだり友だちと共有したりすることが難しくなった。 ・提供の仕方、後始末の方法など、消毒と関連した適切な方法がわからないまま、不安を抱えている。	1歳以上3歳未満児保育／オ  ・家庭の教育力の向上のための支援やそれを行うための連携体制の構築など。  ・核家族化や若年層の保育士や保護者が増加傾向な為、言葉遣いやわらべうたなど伝統的なことを引き継いでいくことも大切であると思う。 ・保育環境改善事業 施設の安全や保育環境を整えるための事業  ・保育士が体験の中で様々なことを学ぶ実習や研修の充実  ・保護者・子どものメンタルヘルスケアも必要だが受け止める保育士のメンタルヘルスも大切にできる環境を整える必要があると思われる。  ・保育士数配置基準の法改正  ・小規模であっても、現状の緩和措置で、『保育』として十分なのか、学識を含めた行政レベルで点検・検討。  ・未満児保育において、異年齢ワンフロアが適切か、そのために必要な別室(多目的空間、保育士休憩室など)の整備について学識を含めた行政レベルで点検・検討。  ・コロナ関係で職員が休んだ場合の休園措置、当該親子に対する保育の保障を行政レベルでしてほしい  ・小規模保育施設における消毒の適切な方法・頻度・内容などについて、医療関係者からの指示のもとに行う  ・子どもの表現活動の育ちについての研修の充実と、それらを話し合い提供するための会議の場の保障
	② 音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ。	・楽しめてはいるが、ハード面で制約も多い。  ② ・住宅構造上の問題(階下の人への配慮)	・換気に留意してクラスごとに行っている。  ② ・提供の仕方、後始末の方法など、消毒と関連した適切な方法がわからないまま、不安を抱えている。	
	③ 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ。	・核家族化、共働き家庭が増え、行事食や日頃の食事に対して疎くなったように思える。  ③ ・楽しめてはいるが、ハード面で制約も多い。	・提供の仕方、後始末の方法など、消毒と関連した適切な方法がわからないまま、不安を抱えている。  ③ ・五感からの多様な経験が減った。	
	④ 歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする。	・ユーチューブの影響で、子どもの好む曲が変化しているように感じる。季節の歌や童謡への関心が薄れている。  ④ ・楽しめてはいるが、ハード面で制約も多い。	・密を防ぐ為、集合して歌う機会は減らしているが、放送器具を使用したり各クラスで歌う機会を十分に設けたりし、また、声の大きさも考慮している。  ④ ・提供の仕方、後始末の方法など、消毒と関連した適切な方法がわからないまま、不安を抱えている。	
	⑤ 保育士等からの話や、生活や遊びの中での出来事を通して、イメージを豊かにする。	・生活経験の乏しい子どもは、イメージの共有ができてにくい。 ・より強い刺激を求めようになった子どもたちには、テレビやCDなどを使う場面も多くなってしまっている。  ⑤	・密にならない遊び方を考え、様々な素材に触れる経験を取り入れたが、以前に比べ回数や時間が減ったように感じる。 ・コロナ禍で外出の機会が減り、遊びの幅も狭くなったので、イメージの共有に配慮しなくてはならない。  ⑤	
	⑥ 生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する。	・総合商業施設が増え、お店屋さんなどを知らない子が増え、ごっこ遊びも変化しつつある。  ⑥ ・異年齢の難しさがある。	・コロナ禍により様々な規制、経験が減ってきているためイメージがつかないが増えてきている。  ⑥ ・コロナ禍で外出の機会が減り、遊びの幅も狭くなったので、イメージの共有に配慮しなくてはならない。	

～「1歳以上3歳未満児の保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」

オ. 感性と表現に関する領域「表現」

- ① 身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう。
- ② 感じたことや考えたことなどを自分なりに表現しようとする。
- ③ 生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる。

保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点（「中間のとりまとめ」に向けて） ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要
	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等		
内容の取扱い ① 子どもの表現は、遊びや生活の様々な場面で表出されているものであることから、それらを積極的に受け止め、様々な表現の仕方や感性を豊かにする経験となるようにすること。	① ・社会の変化から、保育士の生活経験や自然の中で遊ぶ体験などが減っている。子どもの表現や感性に気づき共感するスキルが不足していると感じられる。  ・テレビの影響は大きく、また、最近ではYouTubeで流れるユーチューバーのウケを狙った表現に影響されている子どももあり、禁止もできず難しい。	① ・園内外、家庭内外といった様々な場所での、様々な人との交わりの中で、いろいろな経験を重ね、感性を豊かにしていくものであるが、コロナ禍では、そのような機会が奪われ、限られた空間や人とのかわりになっている。また、保育士がコロナ陽性や濃厚接触により、休むと人手不足から適切な援助が見込めない可能性もある。さらに、人手不足は左記のような保育について語り合いよい保育を展開していく機会も減らしてしまう。	1歳以上3歳未満児保育 / オ	
② 子どもが試行錯誤しながら様々な表現を楽しむことや、自分の力でやり遂げる充実感などに気付くよう、温かく見守るとともに、適切に援助を行うようにすること。	② ・共働き家庭や核家族化により人に頼らず抱え込み、育児や時間に余裕がない家庭がみられる。その為、言葉や手が出してしまうが増えてきている傾向が見られる。  ・異年齢が過ごす空間で、年齢に応じた、育ちに合ったかわりを行う難しさがある。また、保育士の人数が定数の配置の中、その子どもにかかわる以外の仕事(別の子どもの対応、掃除、配膳など)をせざるを得ない場面があり、適切な援助ができていないこともある。さらに、ノンコンタクトタイムも全く取れず、定数配置では11時間開所に対応するシフトを組んでも残業が発生することも多く、子どもの様子に対応した保育内容を話し合い機会が少ない。	② ・使用する素材の共有を避けるため、素材の数を見直した。  ・家庭での時間も増え、日中出来ることが増えた事に家庭で気付かれる保護者も多く、受入簿等で成長を感じると記入されることが多くなったように思える。  ・成果主義になってしまうと、充実感を味わえない。月の制作の内容に要注意。保育者として保育内容に評価をもらえず、制作の出来栄評価になってしまうと、園児の充実感からかけ離れた保育者制作になる場合がある。  ・園内外、家庭内外といった様々な場所での、様々な人との交わりの中で、いろいろな経験を重ね、感性を豊かにしていくものであるが、コロナ禍では、そのような機会が奪われ、限られた空間や人とのかわりになっている。また、保育士がコロナ陽性や濃厚接触により、休むと人手不足から適切な援助が見込めない可能性もある。さらに、人手不足は左記のような保育について語り合いよい保育を展開していく機会も減らしてしまう。		

～「1歳以上3歳未満児の保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」		保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと 考えられる視点(「中間のとりまとめ」に向けて) ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要
保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等			
<p><b>オ. 感性と表現に関する領域「表現」</b></p> <p>① 身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう。                  ② 感じたことや考えたことなどを自分なりに表現しようとする。                  ③ 生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる。</p>					
内容の取扱い	<p>③ 様々な感情の表現等を通じて、子どもが自分の感情や気持ちに気付くようになる時期であることに鑑み、受容的な関わりの中で自信をもって表現をすることや、諦めずに続けた後の達成感等を感じられるような経験が蓄積されるようにすること。</p>	<p>・異年齢が過ごす空間で、年齢に応じた、育ちに合ったかわりを行う難しさがある。また、保育士の人数が定数の配置の中、その子どもにかかわる以外の仕事(別の子どもの対応、掃除、配膳など)をせざるを得ない場面があり、適切な援助ができていないこともある。さらに、ノンコンタクトタイムも全く取れず、定数配置では11時間開所に対応するシフトを組んでも残業が発生することも多く、子どもの様子に対応した保育内容を話しあい機会が少ない。</p> <p>③</p> <p>・子どもとの関わり方が分からない保護者もいるため、自己肯定感が低い子どももいる。保護者に子どもの頑張っている過程や取り組みの様子などを伝えることで自信をもって活動に取り組めるようにする。</p>	<p>・園内外、家庭内外といった様々な場所での、様々な人との交わりの中で、いろいろな経験を重ね、感性を豊かにしていくものであるが、コロナ禍では、そのような機会が奪われ、限られた空間や人とのかわりになっている。また、保育士がコロナ陽性や濃厚接触により、休むと人手不足から適切な援助が見込めない可能性もある。さらに、人手不足は左記のような保育について語り合いよい保育を展開していく機会も減らしてしまう。</p> <p>③</p> <p>・コロナ禍でも様々な味、香り等感じられるように畑やプランターで栽培し、食育にも力を入れている。</p> <p>・家庭時間が増え、表情が豊かになったように思える子どももいる。</p> <p>・子どもの保育時間に、事務的な仕事を並行して取り組んでいると、観察できないし、気付きもない。</p>	1歳以上3歳未満児保育 / オ	
	<p>④ 身近な自然や身の回りの物事に関わる中で、発見や心が動く経験が得られるよう、諸感覚を働かせることを楽しむ遊びや素材を用意するなど保育の環境を整えること。</p>	<p>・異年齢が過ごす空間で、年齢に応じた、育ちに合ったかわりを行う難しさがある。また、保育士の人数が定数の配置の中、その子どもにかかわる以外の仕事(別の子どもの対応、掃除、配膳など)をせざるを得ない場面があり、適切な援助ができていないこともある。さらに、ノンコンタクトタイムも全く取れず、定数配置では11時間開所に対応するシフトを組んでも残業が発生することも多く、子どもの様子に対応した保育内容を話しあい機会が少ない。</p> <p>④</p>	<p>・散歩や戸外遊びを通し、様々な物事に保育士自身が感動して言葉をかけることで、子どもの感性を豊かにできるようにする。</p> <p>・コロナ禍により室内より換気の良い外遊びの機会が増えて季節の自然物を使用した制作物を取り入れられる良い機会となった。</p> <p>・散歩に行かなくても園内にある自然豊かな広場で、子どもが草花を見つけたり、虫を探したりできるように広場を整備している。</p> <p>・園内外、家庭内外といった様々な場所での、様々な人との交わりの中で、いろいろな経験を重ね、感性を豊かにしていくものであるが、コロナ禍では、そのような機会が奪われ、限られた空間や人とのかわりになっている。また、保育士がコロナ陽性や濃厚接触により、休むと人手不足から適切な援助が見込めない可能性もある。さらに、人手不足は左記のような保育について語り合いよい保育を展開していく機会も減らしてしまう。</p> <p>・園の周りを散策する場合、1人担任だと難しい。安全のため少なくとも二人の配置が必要と思われる。</p>		